



# 感染管理 チェックリスト

・ノロウイルス ・ロタウイルス  
 ・腸内細菌科(大腸菌・赤痢菌・サルモネラ属・肺炎桿菌・プロテウス属・セラチア属・エンテロバクター族等)  
 ・バクテロイデス属・ユウバクテリウム属・腸球菌

## 災害時のトイレ清掃

手順	感染管理のポイント	チェック	理由
<b>準備</b>			
1	防護具の着用	ディスボグローブを着用する。	前作業者の使用方法に統一化が図れないことが予想されるため、なるべく使い捨ての手袋を使用する。ディスボエブロンが準備されている場合は使用する。
2	消毒水の準備	消毒水は濃度を守る。ふき取り用クロスは、不織布等のディスボクロスを準備する。雑巾を使用する場合は、使用箇所を決めて(便器、コンタクトポイントは別にするなど)何枚か準備する。	便器を拭いた雑巾でドアノブなどを拭くと、糞口感染の原因となる場合がある。
3	窓を開放する	閉鎖された空間の空気清浄度を確保する。	ノロウイルスは、汚物や吐物の乾燥した粒子が、空気の流れ等により舞い上がり、その粒子を飲み込むことで、感染が成立することがある。
<b>トイレ清掃</b>			
1	汚染部を高い所から順に消毒水で拭く	汚染部位は、消毒水で汚れがなくなるまで拭く。	便や尿は、感染性のあるものとして取り扱う。
2	床面の汚れを掃き、床を消毒水で拭く	床面は奥の方から手前の方へ、ワンウェイで拭く。	汚染物を拡大しないように、一方向へクロスを動かす。
3	便座周囲を消毒水で拭く	汚染部位は、消毒水で汚れがなくなるまで拭く。	便や尿は、感染性のあるものとして取り扱う。
4	便器の内側を清掃する	汚染部位は、消毒水で汚れがなくなるまで拭く。	便や尿は、感染性のあるものとして取り扱う。
5	コンタクトポイントを未使用の消毒水で拭く	未使用の別のクロスを使用する。	手の触れるコンタクトポイントは、手指を介した感染成立の原因となる。
6	道具を片付ける	雑巾を使用する場合は、洗浄後、消毒水に浸漬し、乾燥させて保管する。	災害時は水の使用が制限されることから、なるべくディスボクロスを使用する。
7	防護具を脱ぐ	手を汚染させないようにディスボグローブを脱ぐ。	汚染した手袋で、環境周囲に触れると、汚染を拡大する。
11	手指衛生	流水と石鹸による手洗いが望ましいが、速乾性手指消毒薬による手洗いでもよい。	水の制限がない場合は、流水と石鹸による手洗いをを行う。
	物品の準備・補充	複数のトイレを清掃する場合は、物品の準備、補充等の清潔作業と汚染除去作業を分担して行う。	清潔と汚染を交差させない。

参考文献  
 日本のトイレ研究所Hp